

一問一答の迫力をお伝えできず残念ですが、主な質問につきその要旨をまとめました。

第1日目：総務部門

Q さいたま市の電話対応、担当者が名乗らないのはなぜ？

～市役所に問い合わせの電話をしても、課名のみで担当者名は名乗らない。民間では、対応への責任明確化、再問い合わせの際の受付の効率化など様々な理由で担当者を名乗っているが、さいたま市の方針は？

A 新人研修では担当者名を名乗る方法で指導を行っている。また、各区役所でもトラブルの反省に立ち、接遇研修を行ったところもある。今後改善していきたい。

Q NPOとの協働、その中身は？

～NPO支援室の創設、750万円弱の予算確保について評価したいが、選任職員の配置がなく、施策の中身の充実に疑問。その使い道は？NPO先進自治体三重県では、まず行政がNPOを理解する為の全職員対象の研修会を行っており、有効かつ低予算。当市でも実施は？

A まず行政がNPOを理解する必要は理解しており、来年度はこれらを含めたシンポジウムを中心に考えている。

第2日目：教育市民部門

Q 少人数指導のサポート、現役大学生に参加してもらっては？

～現在当市の少人数指導は、予算の制限もあり各校1～2名の加配、その人数で可能な指導を各校が模索している状態と聞く。先日視察に行った津市では、中学の数学授業のサポートに現役大学生を依頼（図書券500円が謝礼）し、大きな成果を上げているが、当市でも導入は？

A 有効な方法については研究していく。

Q 防犯対策に犯罪被害発生マップの作成が有効では？

～防犯は地域の課題として大変重要だが、市民に注意を喚起し、個々人が防犯に取り組むにおいて、身近な町内での被害発生状況を知らせるマップは有効である。県警のホームページに情報はあるが、回覧の形が有効なので市で取り組まないか？

A 全般に防犯対策は力を入れたい。

第3日目：環境経済部門

Q 赤字が続く競輪事業の今後はどうするのか？

～本市の競輪会計は2年連続赤字である。競輪においてはファン層の固定化、高齢化（56.2歳）が著しく、県所有の競技場の老朽化もあり、現場担当者がいくら努力しても先々に明るい展望が見えない状況になっている。どういう基準で見直すのか？

A 今暫くは現場での努力の上、開催を続けたい。

Q さいたま市の観光のコンセプトは？ どのような客層に来てほしいという狙いか？

～観光関連予算を有効に使うためには、漫然としたアピールではなく、市内に点在する観光資源のあるコンセプトでまとめて発信する必要があると思うが、そのコンセプトは？また、どういうターゲットに来てほしいと狙っているのか？

A とにかくあらゆる人に来てほしい。

第4日目：保健福祉部門

Q 動物愛護ふれあいセンターの建設は、県とダブっており、ムダではないのか？

～保健福祉部門では待たれている施策がたくさんあり、少しでも削れる予算を削って回す必要がある。（仮称）動物愛護ふれあいセンターは、県に既にある施設で建設予定地も大変近く、ムダと思われる。県との共同利用など、見直せないか？また、どうしても独自施設をつくるとしても、予定地は動物とのふれあいに適していると思えないが、見直しは？

A 政令市独自の事務として、県とは別の施設で行う方針である。予定地も建設のタイムリミットがあり、可能な候補地の中ではここしかない。